

日経平均株価

2万1988円29銭

▲228円68銭(前日比)

TOPIX

1609.87

▲14.77(前日比)

2019

9/16

月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



幼保無償化実施迫る!

ニーズ強く関連銘柄見直す



無償化実施後は不安も多い
 対応すべく施
 あり、それに
 と予測されて
 以上が増える
 利用希望が今
 化後は施設の
 月からの無償
 ただ、10
 があるようだ。
 かけた狙い
 少に歯止めを
 ている人口減
 的に懸念され
 推し、長期
 た「人づくり革命」を
 とで、政府がかかげ
 配分されてきた社会

10月からの消費増税による増収分については、安倍首相は財政健全化を先送りして、教育無償化に財源に充てる方針を表明しており、これまで高齢者に重点

保障費を全世代型に転換して医療や介護、年金の社会保障関連費に限定して使途を教育に拡げる方針を示してきた。子育て世代に手厚くするこ

運営ノウハウや資金力

10月は8%から10%への消費増税と飲食料品などの税率を8%に据え置く軽減税率制度が初導入されるが、それと同時に幼児教育・保育の無償化も全面的に実施される。幼稚園、保育所、認定こども園などを利用する3歳から5歳児クラスの子供たち、住民税非課税世帯の0歳から2歳児クラスまでの子供たちの利用料が無料になるもの。この新制度実施後は対象施設への需要増の一方で、質の高い教育の持続が焦点になっており、関連企業が再度注目される可能性がある。

設の新
 設や保
 育士の

育成や待遇改善なども急務になってくる。様々な問題点が指摘されるなかで、株式市場では運営ノウハウや資金力に長けて

いる保育
 大手企業
 の存在が
 再度脚光
 を浴びそ
 うだ。
 幼児活
 動研究会
 (215
)全国
 の幼稚園
 保育園で
 体育指導
 を展開。
 独自教育
 「YYP
 ロジエク

日経平均日足チャート



ト」の普及を推進し、園経営コンサルも展開。
 ライク(2462) 子育て支援大手のライクキッズネクスト(6065)を傘下に持ち保育分野に積極展開。
 JPホールディングス(2479) 保育園運営等の子育て支援最大手で保育用品販売や給食なども展開。
 ビジョン(795) 6)育児用品で国内トップで保育園事業も展開。

今週の動意銘柄

gumiはストップ高

1Q1億2900万円の営業黒字

週明け9日、gumi(3903)がストップ高。20年4月期の第1四半期決算は、連結営業損益で1億2900万円の黒字(前年同期赤字)となった。不採算タイトルの早期撤退やスタジオの統廃合などにより開発費用が減少、費用対効果を重視したプロモーションの徹底



ポールHD577月期減益

9日、ポールトゥイン・ピットクルーホールディングス(3657)が急落。20年1月期の第2四半期累計決算は、売上高で124億

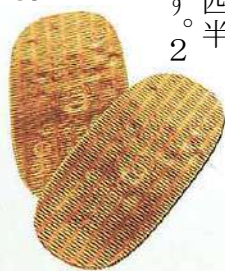
200万円(前年同期比5.7%増)、営業利益16億1200万円(同9.3%増)となった。ただ、5~7月の営業利益は8億5400万円(前年同期比8.2%減)と減益だったことが嫌気された。通期は売上高262億1700万円(前期比10.3%増)へ、営業利益31億7900万円(同0.5%増)と従来予想を据え置いた。

アイル大幅増益続く

9日、アイル(3854)が大幅増益。前19年7月期の連結決算は計画を上回り、営業利益9億5100万円(前の期比80.8%増)と利益が急拡大、20年7月期も12億円(前期比26.2%増)と大幅増益を見込んだ。主力のパッケージソフトウェアの受注拡大と案件の大型化が収益を押し上げる。

正直いいさんの株で小判大判

13日の東京市場は日経平均で9日続伸です。ECBの量的緩和再開や米中貿易協議進展への期待から前日の米国株市場でダウが続伸した流れを引き継ぎました。高寄りのあと利益確定売りに伸び悩む場面はありましたが、トランプ大統領が中絶を計画していることや10月8日20日台まで進んだ円安が支えとなり、相場は全般的に伸びますが、週明けの動きは継続してFOMCを控えて想定されるところです。引き続き明和産(8103)(4410)など9月末高配当銘柄をマック。加えて下旬からは2月決算企業の第2四半期発表がスタートします。24日発表予定で月次好調から高値更新中のスギHD(7649)などに注目です。 花咲翁



2月期2Q決算見据える

10日、ノムラシステム(3940)がストップ高。同社は9日にグローバルにも展開する国内大手の広告代理店(東証一部)のグループ企業から9月6日にRPA開発を受注したことが発表された。

第一三共は出尽く感

10日、第一三共(4568)が急落。トラスツズマブデルクステカンについて、HER2陽性乳がんにかかわる国内製造販売承認申請を行ったと発表した。ただ、株価は先行して上昇しており、当面の材料出尽くし感から利益確定売りが優勢に

OSGは2Q上振れ

10日、OSG(6757)がストップ高。年初来高値を更新。20年1月期第2四半期連結決算は計画

日铸造思惑買いでS高

11日、日本铸造(5609)がストップ高。アップル社が米クパチーノで開

催したスペシャルイベントで「Apple Watch Series 5」を発表、アルミニウムやステンレス鋼に加え、セラミックとチタンモデルを追加したことで、鉄品メーカーの同社に思惑買いが入った。

企業観察

イボキン(5699) ㊦

上場で大手から問い合わせ



解体工事

「中国の廃ブ」の拡大戦略を。環境事業を実現した」

イボキンは産業廃棄物処理・処分、リサイクル専門企業。先週に引き続き山崎喜博常務取締役に今後の展開を聞いた。

最新鋭大型設備導入効果も

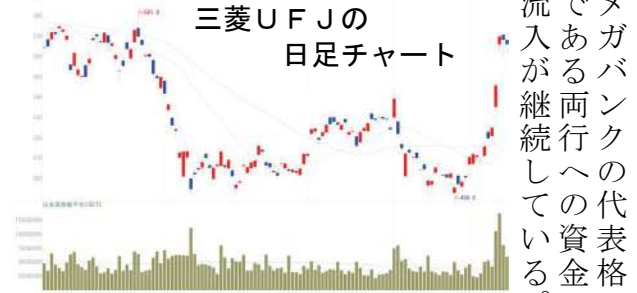
ラストック輸入規制や業務用冷蔵庫などの電気製品を含めた金属系産業廃棄物の処分コスト増加などが背景にニーズが強まってきた。

三菱UF、三井住5連騰

米長期金利1カ月ぶり高値

11日、三菱UFJファイナンスグループ(831)が騰。米長期金利が1カ月ぶり高水準と

HERONは低進捗



4382)が急落。20年4月期の第1四半期決算は、売上高で3億7600万円(前年同期比26.8%増)、営業利益で1億1100万円(同6.7%増)と増収増益ながら、通期の売上高16億3000万円(前期比18.3%増)、営業利益5億2000万円(同23.7%増)に対する進捗状況が嫌気された。事業会社「HERON Z Kishin」を

転ばぬ先のテクニカル

牛熊レシオ86%

先週の当欄で相場の流れの変化の兆しをお伝え致しました。筆者が最初にこの兆しに気づいたのが8月30日のことでした。牛熊レシオと筆者が勝手に名付けた指標(東証移1部全銘柄で20日線を上回っている銘柄と下回っている銘柄の比率)のボトムは8月6日の12.7%でした。

この日の日経平均終値は2万704円でBOX相場を抜けきれずにおりましたが、牛熊レシオの50%超えで只ならぬ気配を感じました。その後日経平均は9月3日から9連騰して2万2000円まで急上昇して参りました。8月26日安値から既に日足五空形成です。また、9月5日に上放れてから7日連続で寄り付きが前日終値より上放れる離れ業。牛熊レシオは86%。目先、買い方ストップのサインです。

日々勇太郎

GA TECH下振れ警戒

公開価格41%上回る

12日、GATECH(3491)がストゥプ安。19年10月期第3四半期累計の連結決算は、営業利益4億5300万円(前年同期比100.0%)で着地した。通期計画の12億1000万円に対する進捗率は37.7%にとどまり、収益下振れが警戒された。先行投資を前倒したことが要因で、第4四半期には回収フェーズ

ピービスの初値12日、ピー・ビス(47)が福証Qボードに新規上場、公開価格1380円を41.3%上回る1950円で初値が生まれた。基幹システムをクラウド化するセキュアクラウドシステム事業、VRシアターを製造販売する。

年末にかけ意外高も

グローバル長期投資家に変化

光世証券

取締役 西川 雅博 氏



相場展望

9月は急速にリスクオンの様相となった。8月は大幅下落が続いてもおかしくない外部環境だったが、値幅調整は限定的だった。この間、日経平均の裁定売り残は7000億円以上増え、9月6日現在で売り残高は2兆円以上という歴史的高水準に積み上がっている。空売り比率も上昇しており、ショートカバーが短期間で一巡するとの見方は時期尚早か。

足元の米景気指標はまだら模様ながら、一方的に悪化傾向ではない状況が見受けられる。バルチック海運指数は6月からの急騰で2倍以上の水準まで上昇している。そうした中、ECBが資産買い入れ再開など予想以上に踏み込んだ金融緩和策を発表した。米国の利下げテンポは当初の市場予想より緩やかになる可能性が出てきたが、中国の内需拡大策など世界的な金融緩和・景気対策は強力な下支え要因として見られるだろう。株式市場にとって非常に都合のいいリスクオンの環境だ。米国での10月以降の貿易交渉進展への期待には、来年の大統領選に向けて景気や株価の底割れは何としても避けるのではとの思惑も働いている。

リーマンショック時に住宅ローンの破綻を予測して「世紀の空売り」で取り上げられたヘッジファンド投資家のマイケル・バリー氏が、極度に過小評価されていることが最近明らかになった。グローバルな長期投資家の日本株に対する変化の兆しが見られる。短期的な過熱感から慎重見通しが大勢だが、実体経済が市場関係者の見方ほど悪化しないことを確認しながら、10月から年末にかけては意外高の可能性が高まったと考える。

ZOZO急伸し高値

ヤフーによるTOBを好感

12日、ZOZO（3092）が急伸、年初来高値を更新した。ヤフー（4689）が1株2620円で公開買付け（TOB）によりZOZO株式の50・1%を取得し子会社化すると発表したことが材料視された。ヤフーはZOZOを取り込むことで電子商取引での衣料分野を強化、ZOZOの状況



友作社長は退任する。ヤフーによるZOZOの決済がヤフーに移管される懸念から悲観売りを浴びた。

週末13日、アイモバイル（6535）がストップ安、年初来安値を更新した。20年7月期の連結業績は売上高142億6600万円（前期比3・5%減）営業利益7億900万円（同77・7%減）と大幅減収減益を予想したことを嫌気した売りが殺到した。主力のふるさと納税事業「ふるさと納税」が、法改正の影響で取扱高が急減すると見ており、納税サイトを手掛けるチェンジ（3962）

アイモバふるさと納税

ZOZO子会社化に伴い、GMOペイメントゲートウェイ（3769）が急落。ZOZOの決済がヤフーに移管される懸念から悲観売りを浴びた。

やアドベンチャー（6030）にも連想売りが及んだ。

ミサワは上方修正

13日、ミサワ（3169）が急伸、年初来高値を更新した。20年1月期の業績予想について、連結売上高で104億3000万円から106億7900万円（前期比4・8%増）へ、営業利益で3億9200万円から5億8000万円（同44・2%増）へ上方修正した。従来の人気シリーズに加え、新シリーズの販売も順調に伸び、適正量の在庫コントロールにより欠品による機会損失が抑制された。

今週の動意銘柄

潮流

バリュー・リバーサル相場へ

金利ボトムアウトで上昇基調鮮明

marKet / bAnk

9月に入って日欧米の株式市場では銀行株など金融セクターの上昇基調が鮮

明だ。ドイツ10年債利回りは8月15日に一時-0.715%まで低下したが、足下ではリバウンド基調にある。8月のグローバル金利の大幅低下は、欧州圏のマイナス金利深堀りにより、米国債券市場へ資金流入が加速した。現在、ドイツについては財政政策への期待感が強い。

9月9日のニュースでは「ドイツ政府、債務拡大へ。影の予算検討。財政規則を迂回」といった財政出動の報道が多くなっている。実現には困難があると想定されるが、財政出動期待は金利上昇に繋がる。欧州発のグローバル金利のボトムアウトの可能性が強まっている。

今後のグローバル金利動向を考える上では、9月18日の米FOMCは要注目だ。今回、緩和決定を確認することで、織り込まれ過ぎた金利が一旦ボトムをつけることが考えられる。金利がボトムアウトすれば更に大きなバリュー・リバーサル相場に繋がる可能性がある。日本株式市場でPBRの低いバリュー銘柄をピックアップした。日清紡(3105)、日本電気硝子(5214)、日本製鉄(5401)、神戸製鋼所(5406)、JFE(5411)、大和工業(5444)、日本軽金属(5703)、三井金属(57

06)、古河電気(5801)、住友電気(5802)、フジクラ(5803)、日本発条(5991)、日本郵政(6178)、三井E&S(7003)、かんぽ生命保険(7181)、めぶきフィナンシャル(7167)、

西日本フィナンシャル(7189)、NOK(7240)、アイシン精機(7259)、マツダ(7261)、ホンダ(7267)、シチズン(7762)、阪和興業(8078)、青山商事(8219)、高島屋(8233)、H2Oリテイリング(8242)、クレディセゾン(8253)など。

9月11日に第4次安倍内閣改造が発足した。新内閣が立ち上がった後に景気対策を発表することがよくある。特に10月から実施される消費増税で景気が落ち込むのは確実だ。安倍総理は財務省の圧力に屈して消費増税を実行する。安倍総理は緊縮財政から積極財政に転換を図りたいというのが本心なのだ。ドイツのように今後、日本も財政出動期待が高まることが予想される。

潮流銘柄は日本電気硝子(5214)、NOK(7240)、クレディセゾン(8253)。

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

日本も財政出動期待

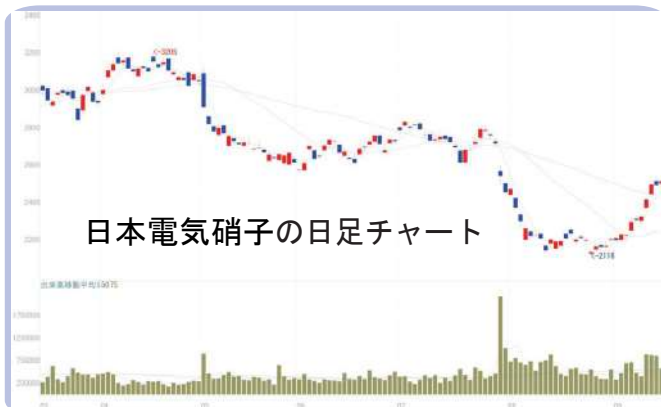


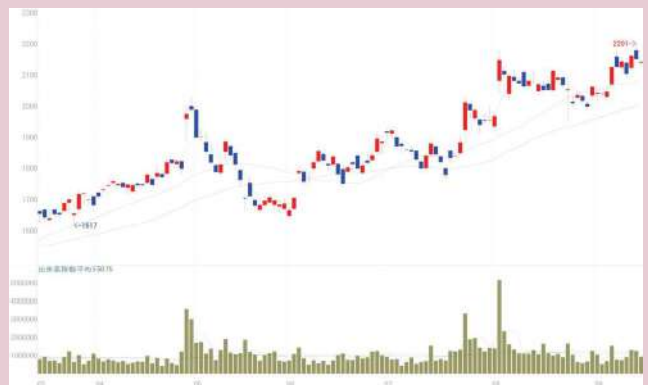
チャート から読む 騰落銘柄

アマノ(6436)



8月6日に50日線割れとなる966円まで突っ込んだ後にジリ高基調継続。7月29日の1006円を抜けたことで3月4日の年初来高値1049円を目指す展開に期待。貸借倍率0.32倍で好需給も支援。

イビデン(4062)



25日線割れから切り返し、年初来高値を更新。週足に続いて月足も陽転する。6.8%営業増益を見込む好業績に加え、信用倍率0.67倍の好取組みも株価を押し上げ、大勢上昇トレンドのなか一段高へ。

クイック(4318)



8月28日に1万8480円まで戻すもその後は調整色が強くなる。25日線を下回ったことで8月6日に付けた年初来安値1万6430円が再度意識される。低価格帯のコスメタリー増で利益率悪化懸念も。

イーレックス(9517)



株式分割を考慮した実質最高値1400円が壁で、5月に付けた年初来高値1380円に続き、8月も1354円を高値に失速。急反落のあと一旦下げ渋るも再び下値模索へ。手じまい売りによる一段安を警戒。

※チャートは日足

今週の

活躍期待銘柄



カルビー(2229)

5月高値上抜き更なる上値へ

カルビー(2229)は目立たぬながら6月28日の2896円を底に適度な押し目を入れながらの上昇基調が継続、5月24日の高値3290円を上抜いてきた。貸借倍率0・67倍の好需給からも更なる上値を期待したい。スナック菓子最大手で北米や中国を含めて海外でも積極的に事業を展開。国内では価格改定効果でポテトチップスが伸び悩んだものの、じゃがりこが好調に推移。海外では昨年10月の英国での事業買収効果が表面化し、中華圏でのフルグラの販促効果、インドネシアでの新ポテトチップス販売が奏功。20年3月期は第1四半期(4~6月)の連結営業利益で64億4800万円(前年同期比11・7%増)と2ケタ増益を達成、通期予想の270億円(前期比0・1%増)達成へ向け順調に推移している。(と)

M&Aや販促効果で海外好調



ハリマ化成G(4410)

9月末19円配当と好取組み

ハリマ化成グループ(4410)は大勢上昇トレンドのなか、過熱感なく下値を切り上げ高値を更新、上値のフシを払い一段高を志向してきた。20年3月期第1四半期は連結営業利益10億9600万円(前年同期比8・8%増)と順調に始動。第2四半期末配当19円の権利取りの買いと信用倍率1・02倍、貸借倍率0・14倍の好取組が株価を押し上げていく。受注環境には厳しさが増しているが、それを上回るピッチで収益対策が進展。1Qはローターが8割近い大幅増益で全社収益をけん引したが、ロジン供給のサンパインとの連携によるグループ内原料調達強化でさらに競争力高めている。中国では山東省の新工場が立ち上がり、主力の杭州と東莞の3工場の連携を強め、流通合理化と環境製品による拡販戦略を進める。(さ)

収益力強化急ピッチで進む



敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、2

25先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの安定した運用実績を誇る。

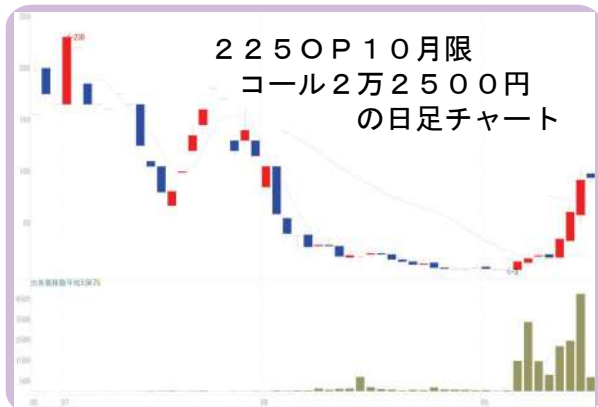
関税「第4弾」を2週間

先週の日経平均は怒涛の9連騰となり、その間の上げ幅は終値ベースで1363円で金曜日には一時2万2000円台に乗せてきた。トランプ氏の中国への

猶予すると発言したことや、ECB理事会が3年半ぶりの金融緩和に踏み切り、円安・ドル高が進んだことも追い風となった。連続上昇記録は2017年10月2日〜24日

連騰後すぐに急落はない

高値もみ 合いの動き



の16連騰以来の約2年ぶりの長さである。悪材料に打たれ強くなっていたところに好材料が矢継ぎ早にでて、買い控えていた投資家が出動、買い戻したい投資家が買い戻し、下値で出来ず上値を入れて戻したといったところであろう。SQ週でもあったのでコールを売っていった投資家は損失を減らすため、損切の買戻しをするか先物を買うしかなく、この先物買いが相場を一段と押し上げたようだ。9月のSQ値は2万1981円09銭と決まったが、金曜日には一時2万2000円台に乗せてきているので「幻のSQ」とはならなかった。

チャートの拡大するボリンジャーバンドの $\Delta 2\sigma$ （2万1842円処）と $\Delta 3\sigma$ （2万2318円処）の間で推移しており、かなり強い状況が続いている。だが、急に激に上昇してきているので、25日移動平均乖離率は5.6%とチャート上の過熱感がでている。直近では17年11月に6.7%乖離が発生し、



その後急落している。この数字を当てはめてみると2万2300円処となり、4月24日の高値（2万2362円）の水準である。騰落レシオも124%と過熱ゾーンに入ってきており注意が必要である。しかし、連騰した時はすぐに急激には下がらないものだ。「まだはもうなり、もうはまだなり」の動きとなる。

今週は19日早朝にFOMCの結果発表があるため、大きな動きは取りにくいと思われる、高値もみ合いの動きになると予想する。

ハチロク

星野三太郎の株街往来

～疑問視される軽減税率の効果～

で、どこからが対象外かがわかりにくく、中小の個人商店は増税後にパニックになるところもあるのではないかと感じた。

複数税率を導入している欧州なども問題点が指摘され、単一税率に戻す流れとなっているのだから、これを提案した政党はどこまでデメリットを考慮したか疑問に感じる。一般消費者の立場に立てば、解り難ければ、なるべくそれには関わりたくないもの。一方、キャッシュレス決済へのポイント還元策の参加店舗も、10月のスタート時には対象店舗の3割にとどまる見通しが伝えられており、増税の影響を和らげるには、どの施策も中途半端感は否めず、結局は消費が落ち込むのではないかと思っている。

これらを導入する費用も税金が使われることになる。それなら一層のこ増税を中止するほうが、景気刺激策になると思うのは筆者だけだろうか。

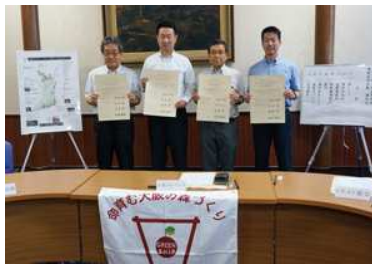


企業レター

100周年記念の森づくり

立花エレテック

大阪府アドプトフォレスト制度活用



大阪府庁での調印式

立花エレテック(8159)は、9月1日に創業100周年を迎えるにあたり、周年事業の一環として、持続可能な社会の実現を目指して社員が活動する「立花エレテック100周年記念の森づくり」をスタート

大阪府のアドプトフォレスト制度を活用し、枚方市東部清掃工場周辺(大阪府枚方市大字尊延寺2949番地)の放置竹林を環境にやさしい広葉樹林化し、地球環境保全の一翼を担っていく。同制度は、大阪府が社会貢献を希望する企業等と森林所有者を仲介し、放置された人工林や荒廃した森林を整備するもの。活動を開始するにあたり、8月7日に大阪府庁(大阪市中央区)で、アドプトフォレスト制度を使って関係者が森づくりに取り組む協定締結として調印式が行われた。



砂像ラフスケッチ

カプコン

鳥取市とコラボ

モンスター・アイスボーン

カプコン(9697)は9月28日から10月31日まで、9月6日に発売された「モンスターハンターワールド・アイスボーン(MHW:I)」の「MHW:I」に登場するモンスターをモチーフにした砂像の展示に加えて、鳥取市内5カ所の施設をめぐるスタンプリーも開催する予定。

鳥取市が誇る芸術作品であり観光資源でもある砂の彫刻「砂像」の魅力

をより広く発信するため、「モンスターハンター」の

させた。

記者の視点 相場見通し

FOMCの動向注視

ヤフー高値奪回とIPOに期待

13日の東京市場は日経平均で9連騰となり、今年最大の続伸記録を更新した。メジャーS&P算出後に利益確定売りに押される場面もあったが、米ブルームバーグ通信などが「トランプ米大統領は12日、中間所得層を対象とする減税を計画しており、今後1年間に公表するだろうと述べた」と報じたことが支援材料となり再度強含む展開となった。急ピッチな上昇から一旦

は押し目を待ちたいが、7月上旬からの2万1800円外を上値とする揉み合いゾーンを抜いたことで、4月高値2万2362円92銭を意識する場面があるかも知れない。9月第3週は16日の日本の祝日に発表される8月小売売上高などの中国経済指標や18日の米FOMC後のパウエル会見が注目されることになる。為替は8月1日に付けた108円78銭が壁になりそうだが、FOMCでの利

動がなければ円安継続で下値不安は薄らぐ。ただ、基本的な流れは強行派のボルトン大統領補佐官の解任でトランプ大統領は融和姿勢に転じており、過度な調整はないと見る。個別ではソフトバンクグループ(9984)が底値圏から離脱できない一方、ZOZO(3092)買収効果で子会社であるヤフー(4689)が強い動き。7月11日の年初来高値341円奪回を目指すか注目。19日のアマファ(7800)とサイバー・バズ(7069)からIPOラッシュが再開することから新興銘柄へのカツ入れ役になるか期待したい。

前週の東京市場では銀行株の上昇が目立った。人気を集め高値圏にあった銘柄は材料が出て伸び悩み、あるいは出尽くし感から売られるケースが増えるなど中小株物色に手詰まり感が漂うなか、米長期金利上昇を手掛かりにメガバンクへの買い戻しが加速、金融セクター全般に見直し買いが広がった。ただ、米金利上昇はリセッションまでを織り込んだ過度の低下の修正の見方もある。週末明けからは世界の金利動向とバリューストックの動きをじっくり見極めることになる。

編集後記



今週のスケジュール

- 13日 米8月小売売上高(21:30)
- 16日 中国8月都市部固定資産投資、中国8月工業生産、中国8月小売売上高(11:00)
- 18日 独9月ZEW景況感指数(18:00)
FOMC(~18日)
米8月鉱工業生産・設備稼働率(22:15)
- 18日 日銀金融政策決定会合(~19日)
8月貿易統計(8:50)
パウエルFRB議長会見(経済見通し発表)
米8月住宅着工件数(21:30)
- 19日 黒田日銀総裁会見
7月全産業活動指数(13:30)
米4-6月期経常収支(21:30)
米8月CB景気先行総合指数、米8月中古住宅販売件数(23:00)
- 20日 8月消費者物価(8:30)
ラグビーワールドカップ2019日本大会(~11/2)

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。